



POINT

- ★働き方改革とは、限られた時間の中でより良い仕事のために考え、具体的に行動すること
- ★チームの「理想的な状態」を考えてそのギャップを埋めていく「カエル会議」の実施を

そして、そのギャップを埋めるために、新たに始めることや止めること、やり方を変えることなどを挙げていく。筆者はこの議論を「カエル会議」と呼んでいる。日々の仕事ぶりを振り返る、進め方を変える、人生を変える——という意味を込めている。「当たり前のこと」と思った読者も多いだろうが、この議論が自然に行われている職場を見たことがない。緊急かつ重要な仕事に追われ、タスクを処理することが最優先となり、チームワークを育むこと・より良い手段を模索すること等に時間と心を割く余裕がなくなっているからだ。



まつひさ・こうじ

1万名以上のビジネスパーソンに働き方改革のアドバイスを提供。中央省庁・警察組織・研究機関など特殊性の高い業種・職種における働き方改革の支援にも定評がある。静岡県三島市在住。一児の父。すぐに実践できる働き方改革のコツをtwitterで発信中。(@MatsuhisaKoji)

新型コロナウイルスによる影響は計り知れないが、こうした状況だからこそ「カエル会議」を実施してはどうだろうか。「私たちの強みは何か」「どんな働き方・暮らし方をしたいか」——立ち止まって話し合うことがなかった壮大ともいえるテーマで、じっくりと未来を見据えてほしい。

先進事例をもとに
今後への活路を
見出す

コロナで一変!

金融機関の働き方改革

松久晃士

株式会社ワーク・ライフバランス

第2回

「カエル会議」の実践で金融機関でも働き方改革を

「働き方改革」は、あらゆる産業において、経営者から一般職層まで幅広い階層において語られる、最重要キーワードの1つになっている。

筆者は10年以上にわたって企業や組織の働き方改革を最前線で支援しているが、今もなお、「働き方改革」という言葉の定義については、一人ひとりが曖昧なままにしている印象を持っている。

例えば、「労働時間の上限規制」という側面で捉える人もいれば、「テクノロジーの活用」「テレワークの拡大」と捉える人もいるだろう。しかし、それらは働き方改革を成し遂げるための手段であり、定義ではないのだ。

いま、日本社会で取り組むべき働き方改革の定義は「限られた時間の中でより良い仕事をするにはどうすればよいか、それぞれの立場で考え、具体的に行動する営み」であると筆者は考えている。

あえて「限られた時間の中で」と表現したのは理由がある。どんな仕事・プロジェクトにも予算の上限があり、資源・人員にも制約があるが、時間については「いくらでもある」と考えてしまっていることが多いのだ。

時間はあくまで、予算や人手と同様に、限られた貴重な資源という発想を取り入れたい。そのうえで「もっと良い仕事」をして、より高い成果へ

「カエル会議」で理想的な状態を考えよう

導いていく必要がある。

今回は具体的に、金融機関でも使える働き方改革の手法を紹介したい。一緒に仕事を進める3〜8名程度で以下の話し合いをしてみよう。

- ①まずは、現在のチームの良いところや成功体験、強み等を挙げていく
- ②次に、どんなチームにしたいか、どんな気分でいたいか、どんな生き方・働き方をおける「理想的な状態」を明確にする
- ③最後に「現在の状態と理想的な状態とのギャップはどこにあるのか」を考えてみる。